



今が、真のセルフメディケーションを伝える時か？

本日は、5月16日、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス第1波を乗り越えたばかりである。新型コロナウイルス感染症の流行で、政府は不要不急の外出を自粛するよう呼びかけ、3月2日から全国の小中学校で臨時休校の要請も行われた。こうした“自粛ムード”が広がる中、患者が医療機関の受診を手控える動きも広がっていった。

新型コロナウイルスを警戒して手洗い・マスクをして、三密を避けて生活するようになった結果、他の感染症も激減した。まずインフルエンザ流行がピタッと止まったと感じた。また、学校が休みでけがや部活での受傷も減った。ある調査では、小児科・整形外科・消化器内科で患者が6～7割減ったという。影響が少なかったのが精神科、変わらないのが外科系の診療科、増えているのは呼吸器内科というデータも出ていた。

私が勤務する薬局には、循環器内科の処方が多い。3・4月の患者数が10%少なくなった。感染症（いわゆる風邪）が圧倒的に少なくなった感がある。これらは、「今まで、いかに不要不急の受診が多かった」ということではないだろうか。病院受診なしで、セルフメディケーションできるということだ。薬局で薬を購入して対応していくチャンスととらえたい。患者が減り、経営が成り立たないと心配する開業医もあるだろうが、反面、医療費の削減にもなると捉えることができる。

中には、通院や内服の継続が必要な患者も感染を懸念して受診を控えた人も見受けられた。大事には至らなかったが、血圧が上がった人や血液凝固阻止剤を中止していた人がいた。こういう患者への受診継続の啓蒙も薬剤師は忘れてはいけないことも付け加えておきたい。

庄子

2020.05.16